

特定非営利活動法人 CAN 2019 年度事業報告

1、事業計画の方針

自立援助ホーム「シーズ南平岸」の退居者の支援を継続し、アフターケア事業所設立について検討する。
 →「シーズ南平岸」の退居者には、CAN が今後も支援を継続できることを伝えて理解を得、関係を継続することができている。実際にアフターケア事業を行っている 5 団体を訪問し、情報収集を行った。また、勉強会を行ったり、近隣の支援団体を訪問するなどして、ニーズの把握に努めた。

2、事業の実施

(1) 自立支援事業

1) アフターケア事業

①全国のアフターケア事業所に職員を派遣し、情報収集を行う。設立について検討する。

アフターケア事業所および近隣支援団体訪問状況

月日	名称	所在地	参加
6月14日	アフターケア相談所ゆずりは 特定非営利活動法人日向ぼっこ	東京都国分寺市 東京都文京区	3名 3名
7月10日	特定非営利活動法人そだちの樹	福岡市中央区	1名
7月11日	おおいた青少年総合相談所 児童アフターケアおおいた	大分市中央町	1名
7月12日	ボランティア団体おひさまの村	青森市古川	1名
7月26日	特定非営利活動法人女性サポート Asyl 認定 NPO 法人 Kacotam	札幌市北区 札幌市北区	2名 2名
10月25日	KC カルム	釧路市芦野	1名
11月25日	子ども下宿イメル	旭川市神居	1名
11月27日	そらち生活サポートセンター	樺戸郡月形町	2名
12月13日	三栄荘	札幌市豊平区	2名

2) 地域生活支援事業

①継続ケースならびにシーズ南平岸を退居した後の利用者に対して相談支援・生活支援等を行う。

退居者への支援状況（上段はのべ件数、下段は実人数）

	電話	メール	来訪	訪問	同行	イベント 参加	フード バンク	年賀状	代行	関係機関 調整
2019 年度 実績	179 (8)	229 (13)	10 (8)	9 (3)	11 (4)	1	7 (1)	17	1	1 (1)
2018 年度 実績	372	283	36	10	14	0	0	-	0	

(2) スタッフ養成事業

1) スタッフの養成

①職員が、アフターケアに必要な社会的知識を獲得する機会を設ける。

→アフターケア全国ネットワークえんじゅに入会し、有益な情報を共有できるようになった。ま

た、研修会にも参加し、各事業所の方と直接話し情報を得ることができた。

2) スタッフの研修派遣

- ①子ども虐待防止学会、北海道子どもの虐待防止協会専門職研修会など他団体主催の講演会・勉強会に参加する。

	研修名	主催	参加	内容など
7月17日	CAN 勉強会第1回	CAN	7名	見学報告、今後について
8月20日	CAN 勉強会第2回	CAN	8名	高校の現状について
9月13日	なぜいま少年法をかえる必要があるの？	札幌弁護士会	1名	『少年法適用年齢引き下げ』が社会にもたらすもの
10月17日	住宅と福祉の出会い方・歩み方	コミュニティワーク研究実践センター	2名	住宅と福祉の連携について
11月7日	CAN 勉強会第3回	CAN	9名	児童養護施設について
11月8日 ～9日	えんじゅ研修会	アフターケア事業所 全国ネットワーク えんじゅ	1名	支援者として学ぶ、アウトリーチと重層的なネットワークを活用した多面的アプローチ

(3) 広報活動（啓蒙啓発事業）

1) 法人からの発信

- ①ニューズレターを随時発行し、会員・寄付を下された方々・各関係機関その他支援者に配布する。
→ニューズレターは、5月、8月、1月に発行した。
- ②派遣・研修先での成果を報告する機会を設けて情報を発信するとともに、関係団体との連携を強化する。
→支援団体に訪問したことで、アジールさんにはベビー用品をお渡しすることができ、カコタムさんとは児童養護施設における居場所カフェの企画にご一緒させていただけることになり、新たな関係を築くことができた。
- ③アフターケアの現状と課題を広く知らせる講演会を行う。
→行えていない。

2) その他

- ①Sapporo 5リボンス®活動に参加する。
→5リボンスに、実質的な活動がなかった。
- ②シーズ南平岸の9年間の実践を総括する。
→全利用者31名について、情報を整理し記録にまとめた。

3、事務局体制

- 1) 事務局は、法人の会計労務全般・レターの印刷発行・印刷物の作成を行い、事業運営の円滑化に努める。
→事業の移管に伴い、全会員に在籍継続の確認をしたところ、正会員1名、賛助会員14名が退会を希望したため、2020年度より正会員29名、賛助会員96名となる。